

第2学年 保健体育科学習指導案

日 時 平成27年 10月 29日 (木) 公開授業Ⅳ
生徒 2年3・4組 3組男子18名 4組男子18名 計36名
指導者 倉田 和大

1 単元名 武道 柔道

2 単元について

(1) 教材について

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。

柔道では、得意技を身に付け、自由練習や簡単な試合で攻防を展開できるようにすることをねらいとしている。したがって、第1学年及び第2学年では、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。また、生徒自身が魅力を感じ、柔道の特性に触れる良い機会とし、身に着けた得意技などが決まった時の達成感や喜びを経験させたい。

(2) 生徒について

生徒は元気で明るく、授業に意欲的である。柔道に対しては1年時に取り組んできたこともあり、積極的に苦手だけれども楽しみたいあるいは楽しみにしているという生徒がほとんどである。アンケートの中で特に多かったのが技の攻防が楽しみであるという答えであった。嫌いと回答した者がいないことから、積極的に参加したいという意欲や、楽しみたいという生徒の気持ちを感じ取ることができる。また、本年度新体力テストの結果を全国平均と比べてみると、上体起こしが若干ではあるが低い学年であることから、関連して高まる体力として筋力・筋持久力の向上も期待できる。

(3) 指導にあたって

本単元では、はじめに1年時に行ってきた基本動作と受け身、固め技の復習を確実にを行い技の系統性や安全性に配慮しながら投げ技を取り扱い、約束練習を通して、相手の投げ技に対応した受け身を確実に身につけさせたい。また、後半は身につけた技を多く発揮でき、得意技を獲得できるようにしたい。

「見通す・振り返る」に関しては、単元の最初に学習内容と大まかな流れを説明するとともに、模範となる試合のビデオを見せ、全体的な理想のイメージを持たせる。また、各授業では、ペアやグループ活動による話し合いや、教え合いの場面を多く設定することで、技能の共有化を意図的に組んでいきたい。

3 単元の目標

- (1) 相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開することができるようにする。【技能】
- (2) 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ手を用いないなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。【態度】
- (3) 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【知識・思考・判断】

4 指導計画(柔道 12時間扱い 本時9/12)

次	時数	学 習 活 動
第1次	1	・オリエンテーション
	2	・安全確認と受け身の確認
	3	・受け身の確認と、固め技の復習
	4	・投げ技につながる八方の崩し
第2次	5	・新しい技を習得し、技ができる楽しさを味わう〈1〉(関・意・態)(知)
	6	・新しい技を習得し、技ができる楽しさを味わう〈2〉(関・意・態)(知)
	7	・新しい技を習得し、技ができる楽しさを味わう〈3〉(関・意・態)(知)
第3次	8	・学習した技を利用して相手との攻防を楽しむ〈1〉
	9	・学習した技を利用して相手との攻防を楽しむ〈2〉(思・判)(本時)

第4次	10	・学習した技を利用して相手との攻防を楽しむ〈3〉(思・判)
	11	・試合の行い方について理解する。技の発表会〈1〉(技)
	12	・試合の行い方について理解する。技の発表会〈1〉(技)

5 本時の指導について

(1) 目標

- ア 技を身に着けるための運動の行い方のポイントを見付けることができるようにする。
- イ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることができるようにする。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手だて
運動についての思考・判断	・得意技を身に着けるために「ループごとの攻防」の時間で力に頼らない方法やポイントを見付けることができる。	学習カード等を使って、課題を明確にすると共に、提示した練習方法の狙いを伝える。

(3) 指導の構想

本時の学習は学習してきた技を攻防の中で表現していくものである。したがって、かかり練習のように受けがうまく身をこなしてくれるわけではない。そこで、崩しや体さばきの重要性、あるいは必要性について気づき、振り返り学習を行いたい。また、連絡技につながるように、技をかけようとした相手の身のこなしまで考えさせることができる授業展開にしていきたい。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の方法・観点 ☆「見通す・振り返る」活動
導入 15分	1 集合・整列・挨拶・健康観察 2 準備運動・補助運動・受け身 3 前時想起 4 本時の課題	全	○健康状態を観察し、体調の悪い生徒に無理をさせないように配慮する ○本時の課題と流れの説明をする ☆前時の学習を想起させ、本時の学習に結び付ける。
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">得意技を動きの中で表現しよう！</div> 5 投げ技の選択練習 6 グループごとの攻防① 見つけたポイントの共有 グループごとの攻防②	班 ペア	○選択した技ごとに編成されたグループを確認する。 ○考察する一人にポイントを確認させる ☆技を身に着けるための運動の行い方のポイント ●「思考・判断」自分、仲間の運動のおかない方のポイントをを整理し、学習カードに記入する。
終末 5分	7 まとめ、評価、発表をする 8 あいさつ	個	☆本時の振り返りと次時の課題を確認させる。 ○本時のポイントの共有化を図る。 <期待する振り返り> やみくもに技をかけようとしても力に頼ってしまいうまくいかない。崩しや体裁が重要になってくる。